

# 真下 紀子

発行

真下紀子事務所  
旭川市 3条16丁目 7号

TEL 0166-20-0808  
FAX 0166-20-1616



道は、通告から48時間以内に児童の安全を確認するルールについて緊急調査を行いました。虐待通告受理件数746人のうち682人は安全確認ができ、48時間を超えた64人のうち4人が児童を特定できませんでした。道警等と全件で共有し、詳細な情報提供を求める等して早

政府が緊急総合対策を打ち出す中、児童虐待は急増し、札幌市で虐待によって2歳の女児が衰弱死するなど、現状を打開にするに至っていません。19日の道議会少子高齢社会対策特別委員会で真下紀子議員は、児童虐待防止対策と体制の強化を求めました。

## 虐待防止体制強化へ 2歳児衰弱死事件うけて質問

期対応に努めると答えました

児童相談所が受理した2017年度の相談件数は1万2352件、そのうち虐待相談は3200件で、虐待相談の比率は26%に上がっています。児童福祉

司一人当たりの相談件数は158・4件、そのうち虐待相談対

応は41・3件で3年間で133%増加、2012年度の18件

から激増しています。一方、同

時期に児童福祉司は105%増

の78名にとどまり、現在は92

名になっていますが、相談件数

の増加に間に合っていない

状況。移動時間もかかる広域な本道の

状況を踏まえた増員を求めた質

問に、道は、管轄地域面積や移

動距離を考慮した基準設定と

もに必要な財政措置を国に要請

していると答弁しました。真下

議員が、不足を認識しているな

ら、道として増員を図るよう求

めました。

緊急性を判断するリスクアセスメントシートなどとともに、児童相談所の管轄地域を超えて転居する場合、リスクの高いケースは移管先の児童相談所に対面で引き継ぐと答えました。

また、妊娠期からの不安感、病気や障害、若年など虐待に至らないよう相談機能が重要と指摘した真下議員に、道保健福祉部は、36市町村の設置にとどまっている子育て世代包括支援センターの整備促進、研修を行う

答え、粟井是臣少子高齢化対策監は、専門職員のさらなる増員、関係機関との連携を緊密にし、児童相談体制の強化をはかると応じました。

# 道民の命を守る運動とともに

## 道議団が「明るい会」と懇談会



真下議員は、「教育現場での働き方改革は国の通知を生かして労働時間の軽減をはかるよう引き続き働きかけていきます。教員のなり手も減っていて、働き方を真剣に変えないといけない」と語りました。

17日、日本共産党道議団は、定例道議会に向けて、「明るい革新道政をつくる会」の構成団体の皆さんと道政懇談会を行いました。諸課題で活発に意見交換しました。教職員組合から「教職員の残業が減らない、35人学級など仕事の量を減らさなければなりません」、北の鉄道を守る会からは「JR北海道は100億円も新幹線の赤字を出して運賃値上げとは筋が通らない」など、各分野から様々な課題での発言がありました。

## 旭川では道政・市政懇談会

11日、定例道議会・市議会に向けて、改選後初の道政・市政懇談会が行われました。

真下議員は、鈴木新知事は力ジノ誘致を高橋知事から引き継いでいること、水道事業の民営化を道が推進しようとしていること、国保が道単位化されて国保料引上げの危険があることなど、道政の動きについて報告しました。



参加者からは、除雪問題、バス路線の整備、国保料の引き下げ、税の徴収問題、障がい者福祉、補聴器の助成、会館使用料、旭川大学の公立化など、多岐にわたり意見が寄せられました。

## 定例道議会 開会日宣伝



4月の北海道知事選で当選した鈴木直道知事のもとで開かれる定例道議会開会日の20日、日本共産党道議団は道庁北門前で早朝宣伝に立ちました。

真下議員は、定例道議会で4,500億円の補正予算案が計上され、党道議団が求めていた性犯罪被害者の医療費補助が予算化されると報告し、一人ひとりの命が大切にされる政治をつくるために力を尽くすと訴えました。

# 夕張 石炭博物館火災調査

17日、真下議員は4月に夕張市石炭博物館で発生した火災について、菊地・宮川両道議とともに、厚谷司夕張市長を訪ねてお見舞いしました。



石炭博物館は4月18日深夜、模擬坑道内で出火。消火のため注水し、5月13日に鎮火したものの、坑道内は水没したままです。今後どうするかは未定です。

道議団は、夕張財政再建支援で繰り返し道議会で質問してきました。2006年12月には、「存続の危機に立つ夕張石炭産業遺産をどう守るのか、不採算のものさしで廃止はおかしい」と追及し、老朽化した橋の改修などに尽力してきました。

## 最低賃金引上げ 労働局に要請

真下議員は17日、はたやま和也前衆議・宮川潤道議・佐藤彩札幌市議とともに最低賃金の引き上げについて北海道労働局へ要請をしました。

中央審議会の前に、北海道の現状などを伝えて要請しました。北海道の最低賃金(時給)は現在835円では、フルタイムで働いても年収200万円に遠く届きません。いわゆるAランクの都府県と生活費を比べ

ても、北海道は差がなくなってきたており、生活に苦しむ度合いが強まっています。非正規雇用が増えるにつれて、最低賃金水準で働く人が増えてきています。最賃の引上げを強く要請しました。



## 駅前タクシー乗り場 縁石改修工事完了

「はつらつ道政レポート」の前号で、旭川駅前タクシー乗り場の歩道・車道間の縁石が高くて乗り降りが大変との声を受けて、現場を調査したことをお知らせしましたが、このほど、改修工事が完了しました。

タクシー乗り場と車椅子用スロープ前の縁石が低くなり、「乗りやすく安全になった」と、利用者やタクシーの乗降整理をしている方々から

喜びの声が寄せられています。



## 教育問題学習交流集会

14日、旭川で教育問題学習交流集会が開催されました。日本共産党文教委員会責任者の藤森毅さんが「教職員の働き方を変えたい」という日本共産党の提言について講演しました。

真下議員は、この集会に向けて教育問題についての道議会での質問をまとめた冊子を作成し、それにもとづいて道政報告を行いました。フロアからも義務制の教師と高校の教師から教育現場がどうなっているかの報告がありました。旭川市内だけでなく近郊から駆けつけた参加者もいて、熱気あふれる交流集会でした。



## ちよつと待って 運賃値上げ

### 市民公聴会

真下議員は20日、札幌で開催された「北の鉄路存続を求める会」が開催した「ちよつと待って運賃値上げ、北の鉄路 北海道の未来を考える市民公聴会」に参加し、道議会での議論について報告しました。

JR北海道は国土交通省に対して最大3割もの運賃値上げを申請しています。国土交通省は7月に運賃値上げを審査する公聴会を開催しますが、その前に市民の声を反映させようと市民公聴会が開催されました。

受けられるかはこれからの課題です。観光の重要な施設なのでぜひ再開したい」と述べ、真下議員は、「『炭鉄港』遺産の模擬坑道は、観光資源として期待され、修復には国の支援が必要です。支援の仕組みや再開を一緒に考え、道議会でも取り組んでいきたい」と答えました。

た。

市民公聴会では、3名の市民公述人が意見を述べ、各沿線自治体の住民からも発言がありました。「多くの高校生は公共交通機関を使わないと通学できません。通学費も教育費の一部との観点を持ってほしい」と「毎年120億円も赤字を出す新幹線よりも在来線を残して欲しい」など、様々な意見が出されました。

